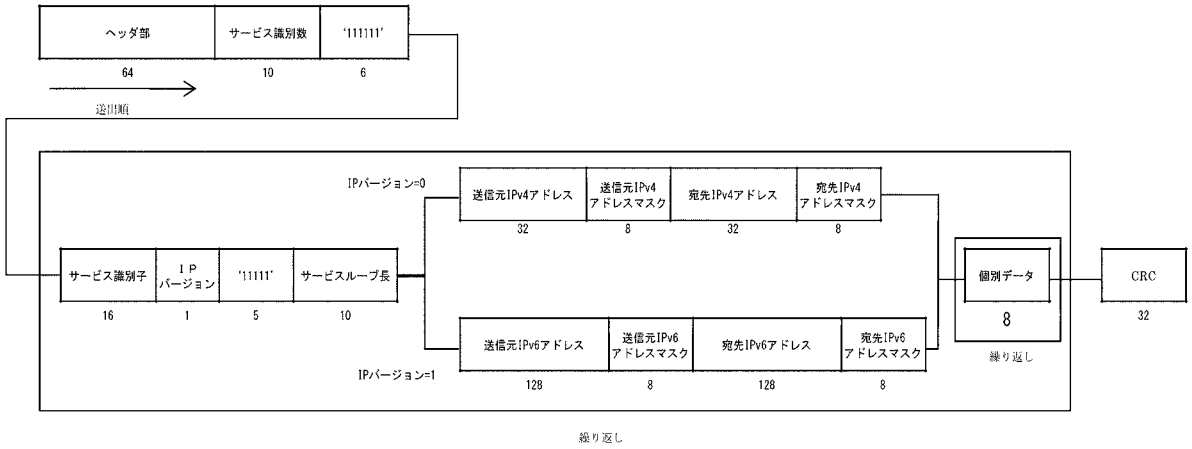
別表第十八号　ＡＭＴの構成



注１　ヘッダ部及びＣＲＣは、別表第五号に示すセクション形式のうち拡張形式と同じとする。

２　ヘッダ部内の「テーブル識別子」の値は0xFEとし､「テーブル識別子拡張」はＡＭＴを示す0x0000とする。

３　サービス識別数は、このＡＭＴに記述されるサービス識別子の数を示すものとする。

４　サービス識別子は、放送番組番号を識別するのに使用する領域とする。

５　ＩＰバージョンは、放送番組を構成するＩＰパケットのバージョンを示し、割当ては次表に示すとおりとする。

値	割　当　て
0	IPv4
1	IPv6

６　サービスループ長は、この領域の直後から、次のサービス識別子又はＣＲＣの直前までのバイト数を示すものとする。

７　送信元IPv4アドレスは、放送番組を構成するIPv4パケットの送信元ＩＰアドレスを書き込む領域とする。

８　送信元IPv4アドレスマスクは、送信元IPv4アドレスに指定するＩＰアドレスに対し、有効となる最上位ビットからのビット数を指定するために使用する領域とする。

９　宛先IPv4アドレスは、放送番組を構成するIPv4パケットの宛先ＩＰアドレスを書き込む領域とする。

10　宛先IPv4アドレスマスクは、宛先IPv4アドレスに指定するＩＰアドレスに対し、有効となる最上位ビットからのビット数を指定するために使用する領域とする。

11　送信元IPv6アドレスは、放送番組を構成するIPv6パケットの送信元ＩＰアドレスを書き込む領域とする。

12　送信元IPv6アドレスマスクは、送信元IPv6アドレスに指定するＩＰアドレスに対し、有効となる最上位ビットからのビット数を指定するために使用する領域とする。

13　宛先IPv6アドレスは、放送番組を構成するIPv6パケットの宛先ＩＰアドレスを書き込む領域とする。

14　宛先IPv6アドレスマスクは、宛先IPv6アドレスに指定するＩＰアドレスに対し、有効となる最上位ビットからのビット数を指定するために使用する領域とする。

15　個別データは、個別に定義されたデータを書き込む領域とする。